

平成14年度トップセミナー

平成14年4月5日、東京都千代田区大手町の経団連会館において、会員の経営層及び事業所長級の幹部を対象とした平成14年度トップセミナーを開催し、約100名が参加しました。

今回のセミナーでは、講師として宇宙開発事業団理事長 山之内秀一郎氏と評論家でありジャーナリストでもある木元教子氏をお招きし、鉄道・宇宙産業での経験から得られた安全確保のポイント並びにメディアトレーニングの必要性について講演を頂きました。

冒頭、牧野理事長より、「最近のエネルギー情勢」「NSネットの活動実績」「今後の活動方針」について紹介があり、「昨年9月に発生した米国テロ事件は、様々な分野に影響を及ぼしており、今後原子力を進めるに当たっては、安全確保の徹底が基本となっている。そのような意味で、原子力の安全を確保していくために設立されたNSネットの重要性は、ますます強まっていくと考えられる」などの話がありました。



▲トップセミナーの様子



▲宇宙開発事業団理事長 山之内秀一郎氏

山之内氏からは「鉄道から宇宙へ…信頼性との戦い」と題し、安全確保に必要な戦略的安全対策やトップの姿勢などについて国鉄時代から長く勤められたJR時代の体験を中心に、宇宙開発における技術との類似点・相違点等を交えた紹介がありました。

「戦略的安全対策では、システムの特徴(弱点)を知り、そこを狙った重点的な対策を取ることが王道であり、大事故の予兆と思われるいくつかの事象から、当該システムの特徴(弱点)を把握することが重要である」

「一方、真の安全に取って無益なものは、「安全第一」というかけ声だけで安全戦略を持たないリーダーや精神主義偏重論者のトップ階層、また、現場レベルでは、手抜きを誇る作業者とそれを容認するフォアマン(管理者)である」

一方、木元氏からは「メディアトレーニングの必要性」と題し、原子力の安全に対する市民の理解を得るため、メディア対応はどうあるべきかについてジャーナリストの立場から具体例を交えた話がありました。

「企業のトップ、責任者は、メディアが民意を反映する力を持ち、意識・無意識に関係なく世論を操作できる力を持つなどの特徴を認識した上で、危機管理として正確な情報伝達(広報)としてのメディアトレーニングを受けることが必要である」

「NSネットの活動は内向き。社会の人々が“安全文化”というものをどのように考えているのか、NSネットの活動をどう見ているのか、ということを常に考えながら行動をすべきである」



▲評論家 木元教子氏

会員からは、「安全確保の手段が精神論に傾きがちな中で、改めてシステムの改善の重要性を認識させられた」「過剰報道や歪曲報道に対して、毅然とした対処が必要であるということも再認識した」など多数の意見が寄せられました。

平成14年度総会・第7回理事会を開催

4月5日、東京都千代田区の経団連会館において、NSネットの第7回理事会と平成14年度総会を開催しました。

第7回理事会では、平成13年度の活動報告が行われた他、平成14年度の事業計画案、NSネット評議員の再選など、平成14年度総会議案が審議、承認されました。引き続き行った平成14年度総会では、平成13年度の事業報告を行うとともに平成14年度の事業計画を決定しました。また、評議員会の評議員7氏の再任が報告されました。

第7回理事会の様子▶



平成14年度の事業計画では、本格的活動開始から3年目となることから、NSネットの設立の趣旨である「会員間における安全文化の共有・向上」に向けた活動の一層の充実をめざし、安全文化普及、相互評価（ピアレビュー）及び情報交換・発信のそれぞれにおいて、前年度から継続するもの、2巡目となるもの、及び活動対象の事業所形態が変わるもの等の計画を着実に実施し、かつ実効ある活動の展開をはかることとなりました。活動の重点は、評議員会やNSネットセミナー等におけるご意見への具体的な対応、NSネット活動の一般の方々への積極的なアピール、そしてピアレビューのさらなる質的向上とし、それぞれ活動していくこととなりました。



▲平成14年度総会の様子

● 平成14年度の主な事業

1. 原子力安全文化の普及

原子力安全意識の徹底を図るため、会員の各層を対象にしたセミナーを開催します。また、会員の事業所を巡回して講演や安全管理、教育・研修活動等について意見交換を行う「安全キャラバン」は本年5月で36会員を一巡する予定であり、今年度は、2巡目として引き続き14事業所で実施し、さらなる安全意識の徹底と安全文化の向上を図っていきます。

2. 会員間の相互評価（ピアレビュー）

会員各社の専門家でチームを編成して会員の事業所を訪問し、組織・運営、教育・訓練、放射線防護等の安全の共通分野について対等の立場から評価を行う「相互評価（ピアレビュー）」は、一昨年4月より、核燃料物質等を取扱っている事業所から先行して実施し、これまでに20事業所の相互評価を終了しています。今年度は、4月の(株)ジェー・シー・オーを皮切りに、核燃料サイクル施設を所有しないプラントメーカーを中心とした11箇所の事業所を対象に実施する計画です。

3. 原子力安全に関する情報交換・発信

原子力施設で生じたトラブル情報やヒューマンファクターに関する情報等を会員間で共有するシステムを運用していますが、今年度は更にデータベースの拡充を行い、会員間における安全に関する情報の共有化を図っていきます。また、NSネットの活動状況や原子力に関するプレス発表情報等については、引き続きホームページ上で一般の方々に広くお知らせしていきます。更に、海外の原子力機関との連携及び情報交換、メールマガジンを利用したアクティブな情報発信も計画しています。

以上の活動の他、相互評価の客観性を高めることによる社会的合意の促進、日本原子力文化振興財団や地方原子力懇談会等の場を利用した一般の方々へのNSネット活動の紹介等を行なうことにより、原子力産業界の信頼回復への取り組み状況をご理解いただくよう努めていきます。

平成14年度 NSネット事業計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総会、理事会 評議員会	▽理事会／総会 H13決算報告 H14収支計画 H14事業計画			▽評議員会				▽理事会 H15予算			▽評議員会	
安全文化普及活動	▽トップ セミナー	他機関との共催セミナー（随時）				▽管理者 セミナー	▽NSネット セミナー					▽管理者 セミナー
● セミナー関係												
● 安全キャラバン		第35・36回 キャラバン	第37・38回 キャラバン	第39回 キャラバン	第40回 キャラバン	第41回 キャラバン	第42・43回 キャラバン	第44・45回 キャラバン	第46回 キャラバン	第47回 キャラバン	第48回 キャラバン	第49回 キャラバン
● 刊行物	NSネットニュース発行（随時）											
相互評価 （ピアレビュー）	第21回 相互評価	第22回 相互評価	第23回 相互評価	第24回 相互評価		第25回 相互評価	第26回 相互評価	第27回 相互評価	第28回 相互評価	第29回 相互評価	第30回 相互評価	第31回 相互評価
	レビュー者研修			レビュー者研修			レビュー者研修			レビュー者研修		
情報交換・発信	ホームページの更新・拡充、海外へのトラブル情報等の発信											
● 一般向けホームページ	ホームページの改良（メールマガジン、コラム、フォーラム、NSネット活動へのアンケート等）											
● 会員向けホームページ	データベースへの新規データ登録、会議室を使った会員間の情報交換の促進											
	より分かり易いデザイン・構成への見直し、検索機能の追加											

平成14年度 相互評価（ピアレビュー）実績及び今後の予定

回	実施（予定）時期	会員名・事業所	所在地	対象施設の分類
21	平成14年4月16日～19日	(株) ジェー・シー・オー 東海事業所	茨城県 那珂郡 東海村	核燃料物質使用施設
22	平成14年5月28日～30日	レーザー濃縮技術研究組合 東海濃縮実験所	茨城県 那珂郡 東海村	核燃料物質使用施設
23	(平成14年6月)	三菱重工業(株) 神戸造船所	兵庫県 神戸市	プラント設計・製造
24	(平成14年7月)	(株) 日立製作所 日立事業所	茨城県 日立市	プラント設計・製造
25	(平成14年9月)	三菱電機(株) 電力・産業システム事業所	兵庫県 神戸市	プラント設計・製造
26	(平成14年10月)	石川島播磨重工業(株) 横浜エンジニアリングセンター	神奈川県 横浜市	プラント設計・製造
27	(平成14年11月)	富士電機(株) 東京システム製作所	東京都 日野市	プラント設計・製造
28	(平成14年12月)	原燃輸送(株) 本店(六ヶ所輸送事業所)	東京都 港区 (青森県 上北郡 六ヶ所村)	核燃料物質等輸送
29	(平成15年1月)	電源開発(株) 本店	東京都 中央区	プラント建設準備
30	(平成15年2月)	三井造船(株) 玉野事業所	岡山県 玉野市	キャスク設計・製造
31	(平成15年3月)	中部電力(株) 浜岡原子力発電所	静岡県 小笠郡 浜岡町	原子力発電施設

*実施時期は、都合により変更となる場合もあります。

相互評価（ピアレビュー）の実施状況

今回は、第21回(株)ジェー・シー・オー東海事業所で行われたピアレビューの状況を紹介します。ピアレビューの概要及び報告書の全文をNSネットホームページに掲載していますのでご覧ください。

平成14年4月16日から19日にかけて行われた第21回のピアレビューには、日本原燃(株)、東北電力(株)、(株)東芝、九州電力(株)及び日立造船(株)の専門家(計5名)が評価チームに参加し、組織・運営、緊急時対策、教育・訓練、運転・保守、放射線防護及び重大事故防止の分野について、原子力産業界のベストプラクティスに照らして評価を行いました。

評価の結果、東海事業所では、臨界事故以降、社長以下経営トップが率先垂範して、コンプライアンス(法令遵守)の所員への浸透、「報告・連絡・相談(ホウ・レン・ソウ)」の徹底などの種々の安全活動に工夫しながら取り組んできており、これらの活動が着実に全所員に浸透しつつあることが確認されました。



▲ ピアレビュー報告書の提出
牧野理事長(写真右)より
(株)ジェー・シー・オー稲見社長(写真左)へ

主な良好事例

- 安全監査結果等を踏まえたコンプライアンスに対する認識の強化
- 事業所トップの率先垂範による各種安全文化醸成活動の展開
- 「1人KYシート」や「安全カード」等による「JCO行動指針」の定着
- 防火管理者を中心とした「防火管理委員会」による活発な防火管理施策展開

主な改善提案

- トラブル事例の反映活動等の位置付けの明確化・文書化による一層の定着
- 教育・訓練の体系化及び個人別履歴管理の確立
- 各作業現場への「作業手順書」等の配備
- 現場点検等記録類の位置付けの明確化

安全キャラバンの実施状況

今回は、平成13年度最後となる第34回の安全キャラバンの様子について紹介します。キャラバンの詳しい内容については、NSネットのホームページをご覧ください。

回	訪問日	訪問事業所	安全講演会講師	講演テーマ
34	3月20日	日揮(株) 横浜本社	東京電力(株) 原子力研究所 HFグループ主任研究員 吉澤由里子氏	安全の秘訣とは何か ～無事故組織に学ぶ～



▲ 吉澤由里子 氏

「無事故組織を調査した結果『安全を維持する特効薬はない』ことがわかりました。そして『トップ自らの姿勢』と『自分たちでできる活動を地道に続けていく』ことが重要だと思います」



▲ 意見交換会の様子



NSネット (ニュークリアセーフティーネットワーク)
NSネット(ニュークリアセーフティーネットワーク)は、東海村のウラン加工施設における臨界事故を教訓として、原子力の安全文化の共有化・向上を図るため設立された相互交流ネットワーク組織です。

NSnet News No.13 2002年6月発行
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル437号室
TEL: 03-5220-2666 FAX: 03-5220-2665
インターネットでNSネットの詳しい活動内容をご紹介します。
<http://www.nsnet.gr.jp>